

〈日本 SPF 豚研究会誌〉

「All about SWINE」投稿のお願い

SPF 豚の普及に役立つ調査・研究論文および防疫、飼養、流通、消費等に関する解説・資料等の原稿を募集しております。下記要領にご留意の上、ご投稿下さい。

1. 原稿は原則としてワープロを使用してA 4用紙に横書きで作成して下さい。手書きの場合は、400字詰原稿用紙を使用して下さい。
2. 原稿の1枚目には表題（英文表題も併記）、投稿者名（ローマ字表記も併記）、所属機関名（郵便番号および住所）を記して下さい。2枚目以降の記述形式は特に定めませんが、資料等を引用した場合は末尾に「参考資料」または「引用文献」の項目を設けて下さい。
3. 表は原則として縦罫線を使用せず簡潔なものとし、また図はそのまま印刷が可能なように白色紙または方眼紙に黒色で記入して下さい。写真は原寸印刷が可能なように原則として横7cm程度、縦7cm以下として下さい。
4. 原稿の送付先は「〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 応用獣医学連合講座 浅井鉄夫」までお願いします。

〔編集後記〕

薬剤耐性菌が畜産物を介して家畜の生産現場から食卓へ運ばれることが問題視され、食品安全委員会、農林水産省及び厚生労働省がリスクアナリシスに基づいて薬剤耐性菌の畜産現場での増加や畜産物の汚染防止への対応が進められている。昨年5月に世界保健機構（WHO）の総会で、薬剤耐性に関する“Global action plan”が決議され、

これまで先進国を中心に耐性菌対策が講じられてきたが、全世界的な取り組みへと広がりつつある。

家畜の飼養現場では、細菌性疾病の治療に抗菌剤が使用され、薬剤耐性菌が家畜に分布する原因の一つである。本号では、「抗病性育種」と「抗菌剤の慎重使用」についてご寄稿いただいた。細菌性疾病に対する抗病性育種は、抗菌剤を使わなくても生産性に影響せず良好に飼育できる可能性を提案する興味深い技術である。「慎重使用」は、畜産分野で抗菌剤を使用することを医療と獣医療の間での折り合いをつけるために、重要な取り組みとして国際的に認識されている。

「All about SWINE」

第48号

2016年2月発行 定価1,500円

発行者 小林 秀 樹

編集者 浅 井 鉄 夫

発行所 日本 S P F 豚 研 究 会

事務局 (株)伊藤忠飼料研究所

予防衛生チーム内

〒325-0103

栃木県那須塩原市青木 919

Tel : 0287 (64) 3652

Fax : 0287 (63) 8384